

新聞を活用した教育活動の在り方について

～多様な場面での新聞の活用～

都城市立有水中学校

教諭 宮本 和典

1 主題設定の理由

学習指導要領の改訂の教育内容に関する改善事項として、「言語活動の充実」が盛り込まれている。私たちが生きる21世紀は、未曾有の経済問題や環境問題をはじめとしたさまざまな問題が山積している。そうした社会で大切なことは、論理的な思考や感性を働かせながら問題解決の方法を探り、自分の考えを自分の言葉で表現する能力といえる。PISAでも読解力を「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義している。自己実現や社会参加のための重要な道具として、言語を活用できる能力を獲得することが不可欠となるわけである。

新学習指導要領では、「言語活動の充実」を全教科・領域等で展開するとしている。「言語活動」というと、一般的には「国語科で行うべきもの」と考えがちであるが、理科や社会科で、データを読み取って仮説を立て、それを仲間との討論を通して検証していくことも「言語活動」であるといえる。つまり、国語科を中心に学んだ言語に関する知識を活用する活動こそが学習指導要領のいう「言語活動」であると考ええる。言語活動によって身につけようとする力は(※以下、「言葉の力」)、単に言葉についての知識を学べば身につくものではないと考えている。学んだ知識を活用する場面がなければ、身に付かない。つまり、各教科の授業はもちろん教育活動全般で活用する場面を設けることが重要になってくる。

以上の理由から、本主題を設定した。

2 研究の内容

本年度は、NIE実践指定校初年度であり、来年度以降の実践の足掛かりとするために、授業では、私が担当する社会科の取組を中心に、

授業外の教育活動においては、朝の会における各学級での取組等を中心に実践を展開することとした。

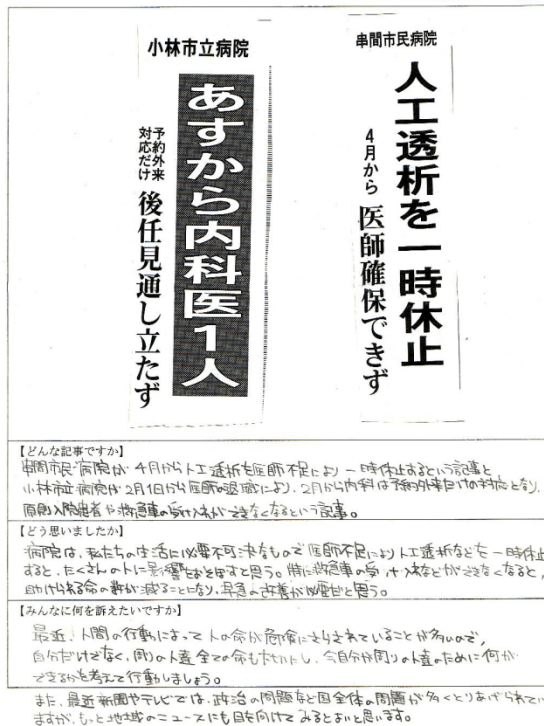
3 研究の実際

(1) 朝の会における新聞を活用したスピーチについて

本校では、今年度の朝の会から、新聞記事を活用したスピーチ活動を行うことにした。スピーチ内容は、①記事の内容の説明、②記事に対する感想、③記事の内容から、皆に訴えたいこと、の3点とした。スピーチまでの流れは、当番の生徒が前日に原稿を作成し、表現や視点について担任教師からアドバイスを受け、翌日の朝の会で発表するという形にした。さらに、発表を終えた原稿を教室や廊下に掲示し、生徒の活動状況を全校に発信するようにした。以下に生徒のスピーチの内容を紹介する。



【スピーチの様子：宮崎日日新聞社より提供】



【発表原稿】

どんな記事ですか

串間市民病院が4月から人工透析を医師不足により一時休止するという記事と小林市立病院が2月1日から医師の退職により、2月から内科は予約外来だけの対応となり、原則、入院患者や救急や救急車の受け入れができなくなるという記事

どう思いましたか

病院は、私たちの生活に必要不可欠なもので、医師不足により人工透析などを一時休止すると、たくさんの人に影響を及ぼすと思う。特に救急車の受け入れなどができなくなると、助けられる命の数が減ることになり、早急な改善が必要だと思う。

皆に何を訴えたいですか

最近、人間の行動によって、人の命が危険にさらされていることが多いので、自分だけでなく、周りの人達全ての命も大切に、今自分が周りの人達のために何ができるかを考えて行動しましょう。また、最近、

新聞やテレビでは、政治の問題などの国全体の問題が多く取り上げられていますが、もっと地域のニュースにも目を向けてみるとよいと思います。

【発表原稿詳細】

(2) 生徒会集会における実践について

本校では、毎月実施されている生徒会集会で生徒会が主体となり「命の大切さを考える日」の時間を設けている。その中の活動で新聞記事を用いて生き方について考える実践を行った。

① 当日の流れ

- ① 井ノ上正盛さん(イラクで殉職された宮崎県都城市出身の外交官)の紹介をパワーポイントで行う。
- ② 井ノ上さんが小学5年生の時に書いた作文の記事を読む。
- ③ まとめる。
「幼い頃からの志を実現させた先輩に学び、みんなも志を高くもって生きよう」

② 資料

報道番組「アフリカ飢餓地帯」をみて

5年5組 井ノ上正盛

ぼくは、この番組をみて、(実際このようなことがこの世におこっているのだろうか)とうたがいました。だれもがそう思うのではないのでしょうか。

畑の作物も不作で、今まで住んでいた土地をはなれていくようすをみて、ぼくは言葉で言い表せないほどつらい気持ちでした。しかし、ぼくたちより もあのアフリカの人たちはもっとつらいのではないのでしょうか。

ぼくたちが食べる1ぜん分の食料を、1ヶ月間の食料にするという。想像もつかないつらさがあることでしょう。いつだった

か、ぼくの母が

「日本にあまっているお米をわけてあげられんもんやろかね。」

と話して聞かせてくれたことがありました。今になって、ほんとうにどうにかできないものかと思いました。ぼくたちの国は、お米がたくさんとれすぎて農家では休耕田をして国からお金をもらっているそうです。この休耕田をアフリカの人達のために少しでも生かせないものかとぼくは思いました。

このような苦しみの中にある人々をみるとぼくたち日本人は、あまりにもぜいたくすぎるのではないのでしょうか。もし、ぼくたちがあのような食料ききにせまられたらどうでしょう。たった1つぶの米でも大切にしましょう。たった1てきの水でも大切にしましょう。

ぼくたち日本人は、これらのことを十分に理解して生活していかななくてはいけないと思います。それと同時にこのようなえに苦しむ人々に少しでも、できることをしていかななくてはいけないとぼくは思いました。人の国のことと思っても、それがいつかぼくたちの身にもせまってくるような気がしました。



【全校集会の様子】

(3) 社会科の授業における実践について

今年度は、社会科の授業を中心に新聞を活用した授業を展開した。

生徒は、授業で習うことと世の中の出来事がつながっていると感じた時に最も意欲が出る。新聞を「教科書の内容と実際の社会のかけ橋」と位置づけ、活用の在り方について授業を通して検討した。以下に実践例を紹介する。



【授業の様子：宮崎日日新聞社より提供】



【授業の様子が宮崎日日新聞に掲載】

※一部抜粋

① 教科・領域

社会科・公民的分野

② 単元

主権国家と国際社会

③ 目標

実際に起きた国後銃撃事件から、北方領土問題の今後について考えることで、それぞれの国家が主権を尊重し合うために何が必要なのか気づく。

④ 評価の視点

個人の意見を出し合い、集団で練り合う活動を通して、北方領土問題の解決の困難さに気づき、そのことをワークシートに記述することができたか。

⑤ 単元の学習展開と留意点

国後島沖漁船銃撃事件（1月29日）の記事を導入材料に「なぜ、自国の領域内で、銃撃を受けたのだろう」という矛盾に気付かせ、北方領土問題の定義について整理した。その後、この問題を解決するために自分が日本国の首相ならどういう解決策をとるかを個人で考え、その意見を持ちより、班で解決策を練り合い発表した。

次時において、前時の復習を兼ねて、実際の政治交渉では、どのような解決策が取られているのかということを紹介し、生徒案の解決策との比較を行った。併せて宮崎日日新聞に北方領土返還要求宮崎県民会議主催によるキャラバン隊が2月7日の北方領土の日に宮崎県庁で出発式を行ったという記事を紹介することで政治家だけではなく、北方領土から遠く離れた宮崎県でも市民レベルで返還実現に向けた取組が行われているということを紹介した。

⑥ 生徒の感想

新聞記事を見て、教科書で学んだことが身近な問題として起きていることに驚いた。

毎日、新聞の一面を見るようにしている。今後もこの問題の行方に興味がある。

4 研究の成果と課題

「言葉の力」を育てるために、活用する場面、すなわち言語活動の場面の設定とその在り方について研究を進めてきた。

朝の会や集会における活動では、生徒一人一人の発表する声の大きさはもちろん、内容にも深まりが見られた（【発表原稿詳細】を参照）。これは、表現力とともにPISA型読解力「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」が向上してきている証左といえる。

今後は、学級での取組が中心であったので、学校全体で取り組むことができる活動を構築していかなくはない。その一方策として、現時点では、掲示物のNIEコーナーの充実を図ることを考えている。

授業では、習った(習おうとする)ことが世の中(社会)とつながっていると感じた時に、生徒は意欲が増し、多面的・多角的な思考をすることができた。生徒の意欲・思考力が向上したことと私自身が主体的に考え続ける生徒育成のために新聞を活用した授業の効果は非常に大きいと感じたことが最大の成果である。

課題としては、今後は、ターゲットスキル・アビリティを教える側の教師が明確にした上で、活用しなければならない。そのことによって、授業で新聞をどうやって、どの程度活用するかが変わってくる。また、社会科だけではなく、各教科や道徳等における新聞を活用した授業の在り方について、研究を進めていく必要がある。